



# 長谷川たかこ

区議会レポート

窓を開けると、さわやかな春の空気が部屋一面に流れ込む、そんな季節となりました。今回の区議会レポートでは、区議会定例会と予算特別委員会の内容を掲載しました。障害者差別解消法の観点から様々な質問と提案をしています。詳細は下記にまとめましたので、是非ご覧ください。

## 誰もが安心して暮らせる足立区に

### 「障害者差別解消法」でよりノーマライゼーションの行き届く足立区に

4月から国の法律「障害者差別解消法」が施行されます。

これは、全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障害を理由とする差別の解消を推進することを目的とするものです。

足立区では、全ての人が安心して暮らしやすい足立区のまちづくりを目指すために、ユニバーサルデザインのまちづくり条例が平成24年12月に施行され、足立区ユニバーサルデザイン推進計画も示されました。

4月から施行される「障害者差別解消法」も意識しながら、足立区でも年齢・性別・国籍・障害の有無など、個々の状況にかかわらず、出来る限り多くの人々が利用しやすいよう、区内の生活環境をデザインしていきたいと思えます。



同じ会派の皆さんと区長へ平成28年度の予算要望を提出

足立区議会議員

長谷川たかこ

平成28年3月予算特別委員会

### 長谷川たかこの政策提言

3月に開かれた予算特別委員会で、次の政策を予算に反映されるよう提言しました。

#### 1 区施設に「おむつ替え台」や「ベビーキープ」の設置を

妊婦や乳幼児を連れた人達が安心して外出ができるよう、子育てをする人の視点や児童・乳幼児の観点から整備をしていく事が重要です。

- ➡ 区内公園の男女トイレ・区役所本庁舎・区施設の男性トイレ等におむつ替え代やベビーキープの設置を求めました。
- ➡ 幼児専用トイレ、キッズデザインのトイレ、キッズ専用手洗い場など児童・乳幼児などに配慮した設備などによるバリアフリー対応を求めました。



#### 2 ユニバーサルデザインの視点でまちづくりを

国のバリアフリー新法より、市区町村で重点地区の選定が進んでいます。

- ➡ ユニバーサルデザインの概念が詰まっているというシンボリックな施設として、区役所本庁舎を中心とした地区での整備を求めました。



#### 3 発達支援の必要な子ども達へきめ細やかなサポートを

28年度より順次、各小学校に特別支援教室が設置されます。これは発達支援が必要な児童が、原則として通常の学級に在籍しながら、特別な指導が受けられる教室です。

- ➡ 通常学級に多く在籍している発達障がいのある何かしらの配慮を要する子ども達に対して、分かりやすい指導を徹底的に強化する「ユニバーサルデザインの教育」の導入を求めました。

※代表的な例としては、日野市の公立小中学校や国立の筑波大学附属小学校で導入されています。

平成28年2月第1回区議会定例会

## 長谷川たかこの成果報告

おかげさまで政策提案が次々と実現しています。

# みんなに光のあたる社会へ。

## 発達障がい児・者・家族支援の構築を進めています

**質疑** 小学校から中・高へつながるアセスメントシートが各学校で必ず導入されるよう、研修会を行い、学校生活支援シートの作成の徹底を求めました。

教育指導室長より

長期計画としての学校生活支援シートと、公立小中学校での支援を具体化した個別指導計画の作成や活用について研修会を行い、保護者には、それらをまとめた学校生活支援ファイルを進学・就労先へ示すことで支援がつながることを周知して行きます。

**質疑** 小学校・中学校・高校との連携を強化させ、事例検討会や情報共有を行う研究会の発足・スキルアップ研修などを行い、全教師が適切な対応が出来る様、組織的な支援体制の構築を求めました。

教育指導室長より

小学校での特別支援教室の設置を契機に、発達障がいのある児童・生徒への指導の充実を図る予定です。公立小中学校での特別支援教育の取り組みなどの情報共有・事例検討会等の場への区内都立高校の参加を積極的に働きかけていきます。

### 本人も家族も支援できる足立区

コラム

コミュニケーションや社会性の障害を中核的な特徴とする発達障がい特性がある場合、成人になるまで周囲に気付かれることなく、進学や就職、結婚などの大きな変化を迎えた時、初めて自分の特徴が「問題」となります。ここ数年、「発達障がい」「自閉症スペクトラム障がい」に対する社会の認識が高まり、このような傾向のある当事者や家族が医療機関や発達障がい支援センターなどを受診するケースが急増しています。しかし、発達障がい支援センターなどを含めた専門機関では、具体的な支援が乏しく、地域支援の受け皿も極めて少ないのが現状です。

孤立しやすい家族に対して、相談やエンパワーの機会を提供するためにも、発達障がいを抱える家族に正しい知識や対処法を伝えるための家族向けプログラムの開発・実施体制の整備を長谷川たかこは足立区の中から構築して行きます！

実現が！

## ペアレントメンター 23区で初めて事業化



## 就学後の子ども達への療育機能の整備を

2月区議会でさらに提言

ペアレントメンターとは、障がいのある子どもの親が同じ立場の親に対して、相談や地域情報の提供や専門機関への紹介などを行う当事者支援活動です。専門家によるカウンセリングを補い、当事者同士の交流で、障がいへの理解や受容に対してもメンターの効果が大きいと言われていています。2014年第3回区議会定例会で提言し、23区で初めて事業化されました。

2014年第3回足立区議会定例会で長谷川たかこが政策提案後、鳥取大学医学系研究科教授 井上雅彦先生のご教示により、足立区で東京23区初のペアレントメンター事業が立ちあがりました！

**質疑** 国は28年度から小学校、教育委員会及び家庭と連携した不登校児童の支援を行います。内容は、発達障がいを抱える小学校4年生から6年生の児童を対象とした、通所による児童への対人関係の発達支援等を行う「**発達障がい児の不登校療育支援事業**」です。

国で行われる効果的なこの支援手法を積極的に足立区で導入するよう求めました。

子ども家庭部長より

現在、不登校の児童・生徒数が急速に増加しており、今後の支援の在り方については検討する必要があると考えています。この国の事業の動向を踏まえ、検討を行っていきます。



Manifesto Awards 第5回 マニフェスト大賞  
最優秀政策提言賞 受賞

長谷川たかこは本当に必要な所に支援が行き届く社会を全力で構築して行きます。

ご意見・ご要望・プレス民主購読のお申し込みは…

活動や政策の詳細はホームページをご覧ください

長谷川たかこ

<http://www.takahase.com>

ご意見・ご要望は Eメールへ [info@takahase.com](mailto:info@takahase.com)



このレポートは、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構\*のアドバイスのもと、色覚の個人差を問わずご覧いただけるようカラーユニバーサルデザインに配慮して作成しました。(ロゴやイラストは対象外)  
\*カラーユニバーサルデザイン機構(CUDO)とは、色覚バリアフリー/カラーユニバーサルデザインへの配慮を啓発する活動を行うことを目的に2004年に設立されたNPO法人です。